

— ピンタックの効果について —

文化女大家政 飯塚弘子 仙台白百合短大 ○鈴木良子

目的 最近のファッションの傾向として、シンプルな形と個性的な柄の組み合わせは後退の傾向にあり、フリル・ギャザー・ピンタック等の技術を加えるデザインが目立っている。このような場合に同一の技法でも柄によって、出来上りの効果が著しく変わってくる人が多いので、布の柄と技法との関係について、ピンタックをとりあげ、そのデザイン的な効果という点から考察した。

方法 一定の大きさの面積をきめてピンタックをとり、どの場合に柄による変化が著しいか、①無地・②方向性のある柄・③四方連続柄をえらび、ピンタックの方向・つまみ分量・間隔をかえて、それらと柄の関係を視覚的な美感の面から、一部アンケートをとり検討した。

結果 いずれの場合にもピンタックをとることにより、布にやゝ立体的な陰影と量感を生じ変化が現われるが、そのとり方によって美しく見えるときと、原布のもつ柄の良さを損う場合とがあることがわかった。①無地の場合はピンタックの方向性や分量による変化が最も端的に現われ、寸法による影響は少ない。②方向性のある柄の場合はその方向と平行にピンタックをとると、分量・間隔により美感を損うことが多いがそれ以外の場合には、むしろ変化のある新らしい効果が現われる。③四方連続柄の場合はよほど各々の柄に適する分量・間隔を考慮しないと、もとの柄の美しさをこわしてしう傾向がある。